



3月24日・25日に愛知県で開催される「第4回全国ホープス選抜卓球大会」。小学生の全国大会で、3〜5年以下の部・各1人、6年生以下の部・2人の計5人のチームによって、都道府県対抗で試合が行われます。

12月に行われた県予選会の6年生以下の部で準優勝し、同大会への出場を決めた富彌加奈子さん（成羽小学校6年）。大会に向けて、所属している成羽クラブでの練習に励んでいます。

加奈子さんは、同クラブに所属する父・繁男さん(40)に、練習へ連れて行ってもらったことがきっかけで、小学1年生から卓球を始めました。

妹の綾子さん(同小1年)も保育園年長から卓球を始め、「お姉ちゃんみたいになりたい」と一緒に練習しています。

同クラブの練習は、火・土曜日を除く週5日、午後7時から9時半まで。都合のつく限り練習に参加し、自宅でも倉庫に卓球台を置いて練習しているとか。また、こ

『夢に向かってスマッシュ』

富彌加奈子さん（成羽町下原）



こ1年くらい、週末は津山倶楽部ジュニア（津山市）の練習にも参加しています。

「練習もほとんど休まず、とても頑張り屋です。津山に通って、ここ以外の様子を見たことも刺激になったんでしょう。最近、ますます腕を上げ、相手をすると勝てないことも増えてきました」と成羽クラブ代表の柳井宏之さん。

父・繁男さんは「本人もよく頑張っていると思いますが、何よりも、加奈子在中だるみしていた時期にも見放さず指導を続けてくれた柳井さんのおかげです」と話されます。

加奈子さんの全国大会出場は、今回で4回目。それでも、やはり試合では緊張するそうです。「大会までの練習で苦手なことを克服して、チームの足を引っ張らないようにしたい」と加奈子さん。

4月からは中学生。大好きな卓球は、これからも続けていきます。「中学生になっての目標は県のベスト8に入ることに。だから練習ももっと頑張ります」ときっぱり。目標に向かって、今日も愛用のラケットを握ります。



3月29日〜31日に千葉県で開催される「第6回全国小学生ソフトテニス大会」に出場する岩瀬隆俊君（高梁小学校4年）。12月の県予選会、4年生以下の部で優勝。同大会には、昨年に続き2回目の出場です。

隆俊君は、現在、倉敷ジュニアソフトテニスクラブ（倉敷市、代表・橋本恭司さん）に所属し、水・金・土曜日の夕方約2時間の練習に通っています。

隆俊君がソフトテニスを始めたのは小学2年生の5月。兄・禎弘君（同小6年）が、親戚にソフトテニスの試合や練習に連れて行ってもらううちに興味を持ち、同クラブに入るようになったので、一緒に始めたそうです。

禎弘君も、何度も全国大会に出場し、平成18年度の岡山県ランキング小学生男子1位になるなど活躍してきましたが、4月から中学生になるため、ここでクラブは卒業です。



『家族への感謝を込めて』

岩瀬隆俊君（中原町）

父・禎孝さん(40)は「禎弘は、ペアを組んでいた子のソフトテニス歴が長く、技術も優れていたの、その子に引張ってもらっていたようなところもあったと思います。隆俊も今はまだ楽しく伸び伸びとやっているような感じですが、まだまだ技術不足の面は多いですね。学年分けがあるので、この春の大会は比較の出場しやすいのですが、学年分けのない夏の大会はなかなか難しいです」と厳しい。

この全国大会では、5年生の部、4年生以下の部で男子・女子の種別ごとに、まずグループに分かれてのリーグ戦を行います。その後、各リーグの順位ごとのトーナメント戦が行われ、最終的な順位が決定します。

「今回はリーグ2位通過だったので、今回の目標はまずリーグ戦を1位で通過すること。それから、トーナメント戦で2・3勝できたらと思います。ペアを組む西

森和希君と一緒に頑張ります」と隆俊君。

練習の送り迎えを続けてくれる家族への感謝の気持ちで胸に、全国大会に臨みます。



「下草を刈っていくうちに、弱々しい若い木が出てくるとうれしい気分になりました」NPO法人「ふれあいの里・高梁」が主催する、高梁美しい森の植林地の下草刈りに参加した学生たちの感想です。

環境リスクマネジメント学科は今年度、NPO法人「ふれあいの里・高梁」の協力により、演習科目の一環として森林保全活動に参加しました。

初回は、本学科の1・2年生31人と教員2人が参加。集合場所では、だるそうな様子だった学生たちも、作業の説明を受けた後、長い鎌を手にとると様子が変わってきました。初めて見る柄の長い鎌を渡され、危険を伴う作業だと自覚したようです。植林地は広い急斜面。うっそうと繁った雑草を鎌で刈ろうとしても、うまく刈れません。「鎌はふり幅を小さく、速く動かして」と、指導員の方が見事な鎌さばきを見せてくださると、学生たちも刺激され次第にうまく刈れるようになりました。刈り進んで、ふとふり返ると、小さな苗木がきれいに並んでいるのが見えます。これで苗木は日に当たり、栄養分を雑草に取られずに育つ環境になりました。

学生たちは、森林を保護・再生するには、植林後も継続的な世話が必要だということ学びました。また、このような大変な作業を地域の皆さんが無償で行っていることも驚きだったようです。キャンパスのすぐ外で、貴重な体験をした一日でした。

学生たちは、森林を保護・再生するには、植林後も継続的な世話が必要だということ学びました。また、このような大変な作業を地域の皆さんが無償で行っていることも驚きだったようです。キャンパスのすぐ外で、貴重な体験をした一日でした。

■問い合わせ 高梁学園広報室（フリーダイヤル0120-25-9944/Eメールアドレス：koho@kiui.ac.jp）

編集後記

今年の桜の開花は、暖冬の影響もあって、ずいぶん早いとか。今からとても楽しみです。
ただ花粉の飛散も早まっているので、花粉症の私にはつらい時期……。取材に出かけるたびに、花粉症の症状に悩まされています。
3月号では、観光に関するさまざまな話題を取り上げました。
多くの人に高梁へ足を運んでもらうためには、高梁の歴史的・文化的遺産や伝統芸能、恵まれた自然などの豊富な観光資源を生かすことは当然必要ですが、地域の皆さんの「おもてなしの心」が、何にも増して大切なのだと思います。

10月の学習観光事業でお話を伺った参加者ご夫妻は、「まち全体で迎えてもらったようで嬉しかった」と話されました。たまたま入った食堂で高梁について親切にいろいろ教えてもらったことが、とても心に残ったそうです。
皆さんもぜひ、ちよとした「おもてなしの心」で、高梁の魅力発信にご協力ください。
4月からも「広報たかはし」をよろしくお願ひします。
(YM)

花が運んでくれる幸せ



わが家の周りでは、一年を通じてさまざまな花などを楽しむことができ、多くの人が、鑑賞や写真撮影に來られます。
今はウメが見頃ですが、これからの時期はレンギョウやサクラ。その他の時期には、ツツジ、サルスベリ、

お話し聞かせて

藤井貞治さん(75)
(高倉町飯部)

フヨウ、モミジなどもあります。自生しているものや趣味で育てているものなどさまざまですが、花や木などはとても正直で、一日一日を一生懸命生きていくように感じます。また、野鳥が集まってきたり、裏山からタヌキやキツネなどが現れたりするような自然に囲まれて生活していると、人間も素直に精一杯生きる努力をしなくてはと思う毎日です。
幸せはみんなで分け合うもの。自分が育てている花などを見て、多くの人に幸せを感じてもらえるとうれしいです。また、「きれいですね」などと声をかけられたり、人の心が穏やかになっていくと思うと、私自身も幸せな気持ちになります。
近くを通られた時は気軽に立ち寄ってください。